

# 熊井の森通信

発行/熊井の森トラスト基金

〒350-0314 埼玉県比企郡鳩山町  
 楓ヶ丘2-2-1 かわせみハウス  
 NPO法人はとやま環境フォーラム気付  
 メール kawasemi3001@gmail.com

☎049-227-3001 FAX049-272-7092 ホームページ <https://hatoyama.info/>

## 11月・12月の活動予定

### ■石場沼上の湿地再生作業

11月23日(勤労感謝の日)、24日(金)、25日(土)の3日間、午前9時、石場沼直下に集合。地主さんとの話し合いを元に石場沼の上部の一部沼地周辺に低い土のうを積み湿地部の水位を上げ、常に一定の水量を確保することで、トンボやトウキョウサンショウウオやヤマアカガエルなどの水生生物の生息環境の安定化を図るのが目的です。作業は午前中で終了。

参加できそうな日がありましたらご一報を。  
 愛場携帯 090-2457-8513

### ■日本ナショナル・トラスト全国大会に参加を

12月9日(土) 午後2時~4時。ワテラスコモンホール(千代田区神田淡路町2-101)で、日本ナショナル・トラスト協会主催の第40回ナショナル・トラスト全国大会が開催されます。当日、はとやま環境フォーラムが「トラスト地のある熊井の森での自然保護活動」をテーマに活動報告をします。天神崎の自然を大切にす会(田辺市)、認定NPO法人霧多布湿原ナショナルトラスト(浜中町)の報告あり。今後の活動に役立つ情報が聴けると思います。皆様もぜひ、お越しください。参加費500円。

### ■熊井の森に集う仲間たちの懇親会(予定)

12月10日(日) 午後1時~4時、かわせみハウス。今年1年間、熊井の森の保全活動に関わったり、楽しんだりしてきた皆さんと、地元の方々もお呼びしての懇親会です。参加料300円。差入れ歓迎ですが、お気遣いなく。ワイワイ、楽しくおしゃべりして1年をしめしましょう。

## 10月の活動報告

### ■越辺川魚捕りイベント協力



10月8日(日) 午前9時、石今橋たもとに集合。NPO法人荒川流域ネットワーク主催「アユ漁体験と魚捕り」イベントにスタッフとして当団体からは3人が協力。主に、駐車場への誘導と記録写真が担当でした。50年前まで入間川水系の河川で行われていた地曳網を使ったアユ漁と、ピストン釣りと呼ばれた簡単な釣りを子どもたちが体験し、アユの塩焼きも食べられ、魚類研究会の金澤光さんの解説



も面白く、さすが長年、荒川流域の自然保護を続けている団体ならではのイベントと感心しました。来年はぜひ、地元鳩山の子もたちにも参加してもらいたいものです。

## 11 November 2023 (令和5年)

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
29	30	31	1	2	3 文化の日 ●はとやま祭	4 ●エコフェス 夕比金
5 ●資源回収 ●石場沼下 休耕地草刈り	6	7	8 土曜	9	10	11
12	13	14 ●理事会	15 日曜	16	17	18
19	20	21	22	23 勤労感謝の日 ●ピオトープ作業●	24	25
26	27	28	29		1	2

## 12 December 2023 (令和5年)

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
26	27	28	29	30	1	2
3	4	5	6	7	8	9 ●ナショナル・ トラスト全国大会
●資源回収	10	11	12	13	14	15
17	18	19 ●理事会	20	21	22 日曜	23
24	25 クリスマス	26	27	28	29	30
31 大晦日	1	2	3	4	5	6

## ■柿もぎ & 芋ほり収穫体験イベント



10月14日(土) 秋の収穫体験の第2弾。午前中は柿もぎ、お昼は焼きたてピザ、午後は芋ほり。定員20人が目標でしたが、15日(日曜日)の天気予報は間違いなく雨、ということで2日前には「中止」を決め予約はキャンセルしました。そんなこともあって参加者目標



数は達成できず残念でしたが、広報のやり方、参加者へのお土産の用意の仕方、料金設定など課題が明確になり、また、自然体験、味覚満喫イベントは若いファミリーには訴求力が十分にあることが分かり、参加者からも貴重なヒントをもらったのは大きな成果でした。

### <9月19日栗拾い & ピザ味覚体験イベント>

## 参加者からの感想メール

### ■普段は飽き性の娘が「もっと探したい！」

家族でとても楽しめました。着いた瞬間から、初めて見るたくさんのトンボに娘は大喜びでした。イガイガの中から、大好きな栗が出てきたことにも驚きながらも大喜びで、普段は飽き性の娘が「もっと探したい！」と一生懸命に探している姿が見られたのが嬉しかったです。自分が作って焼いたピザを、自然の中でみなさまと食べられたのも大変嬉しかったです。たくさんの栗をいただいて、帰宅後も親子で栗のお料理を出来たのも嬉し

い体験でした。親もハーブティーや自然植物のお話をたくさんお聞きできて、とても興味深かったです。ありがとうございました！！

〔エッグタルト 2023/9/19(火)〕

## ■帰りに直売所で盛りだくさんの野菜買い

栗の収穫時期を読むのは本当に難しいそうで、今年は残念ながらまだ早かったそうです。でも普段栗が落ちていっているのを見る機会のない私たちにとっては、地面に転がるたくさんの茶色いイガグリにテンションが上がりました。拾えた栗はやはり少なかったですが、スタッフさんが予め拾っておいてくれた立派な栗を足して貰い、一人500gずつお土産で貰えました。中々お目にかかれないような、凄く大きくて立派な栗でした！栗拾いの前後では子供は栗の木に登ったり、ハンモックに揺られたり、散策路を散策したり。お昼はピザの上に自分で色々トッピングを追加して、石窯でパリパリに焼いてもらいます。ピザの上にマッシュマロとバナナを乗せたデザートピザは、甘じょっぱくて面白い味でした。用意して頂いたパタフライピーとコモンマロウのハーブティーが美味しくて！湧き水やレモングラスやローリエ、ニンニクも頂いて、帰りは近くの農産物直売所で野菜を買って、山盛りの荷物でした。とても楽しい一日を過ごさせて頂きました。〔なゆ 2023/9/17(日)〕

## ■自然豊かでステキな場所、来年も来たい！

半日でしたがお世話になりました？ 私以外のご参加者が全てご家族だったので、正直縮こまってしまいましたが、スタッフの皆様にお心遣いを頂き、とても楽しく過ごす事ができました。目的の栗も丸々として、膨らんでいて、且つ、無農薬、殺虫剤等不使用との事で、安心して頂けます。またピザもベースは市販品でしたが、石窯で焼いて頂け大変香ばしく、また、トッピングも前日から大変なお手間を掛けてご用意を頂いているのを実感し、とても美味しく頂きました。思いがけなく頂いたお土産もとても嬉しかったです。バスで伺いましたが、直売所でゆっくり出来て、自然も豊富でとてもステキな場所でした。また来年もぜひ参加させて頂きたいです。〔Aya 2023/9/17(日)〕

## ■ハトムギ脱穀

10月9日(スポーツの日) 5人で脱穀と袋詰め作業。脱穀機の上に天幕を貼り、ハトムギの枝や粒が飛び散らないように。収穫量は渡邊さんの分も含めて米袋7個あり。渡邊さんの畑から収穫したエゴマも今乾燥中です。

## ■トラスト7号地枯れ倒木処理

10月20・21・21日の3日間の作業は無事終了。MTB友の会、木こりクラブのメンバーなど延べ20人ほどの協力があり、倒木処理。2日目には埼玉県生態系保護協会の串田さんも見に来られ、作業方法についてのアドバイスをいただき、早速取り入れました。現段階でのイメージは、トラスト7号地の石場沼から木橋まではそのまま。



木橋の上からは細い観察路をつけ、木橋から上流に向かった3分の1ほどの平面は灌木を切り、残りの3分の2の左半分は灌木を残し、右半分は日差しが入るようにする。そして、

奥のえぐれたところは池を作り水生生物の生息場所にする、という感じ。これから話合っってしっかりした構想を煮詰めます。ピザと紅茶、コーヒーの差入れ、旨かった！

## 熊井の森での活動目的は「熊井の森の自然保護」と「自然の恵みの活用」



▲第1回ワークショップ（6月21日）

NPO法人はとやま環境フォーラムは2008年の設立当初は、鳩山ニュータウン周辺のゴルフ場散布農薬の環境監視（モニタリング）や唐沢川流域の生態調査などに主に取り組んできましたが、その後、活動の中心が鳩山町の里山保全活動へと移行し、現在は、熊井の森及びその周辺での活動に力点が置かれています。で、この数年間試行錯誤で出来ることはそれなりに頑張ってやってきましたが、改めて、これまで我々が取り組んできた「里山保全」とはそもそも何んだったのか、ハトムギ栽培や味覚体験イベントなどは「保全」とどう関連があるのか、それは地域の活性化とどうつながりがあるのか、という問いに対する検証と活動目的の再確認のための意見交換をしようということで、ワークショップを4回開催してきました。

ワークショップの参加者（敬称略）は、愛場謙嗣、加藤博、野田小百合、佐藤暎子、下川敬明、愛場結偉の理事6人と、瓜生康三郎、嵯峨千代美、王菲、井田清の会員4人（別途、意見書提出のみ・秋野晃司、阿部治 オブザーバー参加・嵯峨創平）。第1回目では論点整理を行い、単に一般論を述べるのではなく、「熊井の森をどうしたいか、自分は何をしたいか」を出し合おうということで、2回目、3回目のワークショップでは、各自が提出した文書をもとに意見交換をしました。

以下はそれら意見のごく一部です。

- 保全と活用のバランスは悩ましいが、信頼できる研究者をアドバイザーに、市民（住民）が一定の知識（情報）を共有し、市民科学者としてボトムアップ型で進めてはどうか。
- 森の周辺の耕作放棄地（非耕作農地）で何らかの作物を作りたい。森に散策路を作り・整備し、人が入森できるようにしたい。森の周辺で農家の方々と協力して賑わいを作りたい。
- 鳩山町全体の生物多様性保全のため、里山環境の保全やそれら自然財産を活用した地域活性化を進める必要があると強く感じている反面、里山環境とは異なる価値を持つ熊井の森を、里山環境的な観光資源に作り替える事には生物多様性保

全の面から問題が大きい。現在の我々の体力では活動ベースを増やすことは非常に難しいが、熊井の森で何でもかんでもやるべきではない。鳩山町も広いのだし、目的に見合ったスマートな場所が他にあると思う。

●自然保護だけを叫んでも多くの人が集まらない。なので、魅力的なイベントを通して、参加者側が自然との距離を縮め自然保護の意識の向上にもつなげたい。主催側も山林保護の資金が多少得られる。休耕地を「シェア畑」として生かしたらどうか、収穫物はお互いに消費、販売も可能。

●「地域の活性化のために」「熊井の森の自然を人集めに活用」できる、という発想は「保全」の目的からすればトレードオフの課題を含んでおり、それは、地元からの評価とか地域の活性化とかの目的が先行した発想であって、あるべき方法論ではない。森の生き物との出会いから、すべてが発想されるべきであって、その結果、森の生き物とのふれあいを求める人が増えるという順番で取り組むべきです。

そして、50数年間、地元のなりわいに寄与することなく、放置されてきた熊井の森は「里山」では括りきれない、独特の生態系を生み出している可能性がある、という認識で一致。4回目(9月27日)のワークショップで「熊井の森での活動目的は熊井の森の<自然の保護>と<自然の恵みの活用>」ということで「ほぼ異存がない結論」となりました。

### 今後の活動方針

**活動の出発点**——「熊井の森」がいわゆる「里山」という概念に当てはまるかどうかは検証を要するが、少なくとも、今我々が関わっている「熊井の森」の生態系の現況調査を重ねながら、それに基づく「熊井の森の自然保護」を行うのが活動の出発点である。

**活動の目的**——自然保護（生物多様性の維持・促進）のための「保全」活動と、自然の恵み（生態系サービス）の恩恵の再認識・学習のための「活用」活動を行うこと。

**活動の場所**——第1次的には我々が所有（賃貸含む）する「トラスト地」である。第2次的には熊井の森全体が対象だが、熊井の森全体の将来目標は未定である。

**活動の進め方**——当該年度計画・3か年計画・5か年計画と複数年計画を立て、「ゾーニング」の作成合意を待たずとも、すでに活動を始めているエリアでの活動は順次進めていく。

**「活用」と「活性化」の区別**——自然の恵みを「活用」した各種活動と、地域コミュニティの「活性化」（にぎわい＝地元の人が元気になる、外から若者や若い世代が訪れ、生計手段を生み出すこと）とは区別する。その上でつながりを考える。

**活動の担い手**——持続可能な保全活動のためには担い手の確保が必須である。自然観察会やエコツアーイベントなど“様々な入口”を通して、担い手を増やす努力をする。

## ニノハオ 熊井の森歳時記

おばあちゃんと「菊枕」を作った思い出



▲中国の祖母宅で撮影 野草花束野菊2種類2016年10月

先日、中国で暮らす母から「菊花展を見に行ってきたよ」と、数枚の写真が送られてきました。まさに菊尽しの世界でした。でも、私は野に咲く菊、いわゆる野菊の方ほうが好きです。野紺菊（紫色）・泡黄金菊（油菊）、あとは牧野富太郎に発見されたノシギクなど、可憐な小さい花、控え目な佇まい、それでいて強い生命力には見るたびに心が惹きつけられてしまいます。

野菊の中の数種類は薬草植物です。昔毎年秋ごろに中国のおばあちゃんと泡黄金菊をたくさん採ってきて、乾燥しておばあちゃん用の「菊枕」を作ったことを思い出します。野菊のほのかな香りがする菊枕は安眠を誘い、失眠・頭痛・目まいなどの病気を防ぐ効果があるそうです。気持ちを落ち着かせる苦み交りのあの香りは、未だに記憶に残っています。

「菊枕」はなんと俳句の季語にもなっています。昭和初期女性俳句の先駆者杉田久女は師匠高浜虚子の長寿を願い菊枕を贈ったことが文学界の逸話となっています。それが野菊だったかどうかは分かりませんが、長寿を願って菊枕を贈ったことに、国境を越えた共通点を感じて嬉しかったです。

熊井の森を散歩したときに野菊に出会ったら、ぜひ愛でてあげてくださいね。(王菲)

## 熊井の森畑日記 ハトムギものがたり⑨

脱穀3年目の知恵



10月に入り、やっと秋らしい爽やかな気候になった。しっかり乾いたハトムギを脱穀できると喜んだが、予定日に雨予報が出た。そこで、予定を変更して10月7日（土）に急ぎよ、脱穀することにした。

脱穀方法は、昔ながらの足踏み回転式脱穀機に、乾いたハトムギの穂をかざし、バリバリと実を弾き飛ばすのだが、そのやり方を少しずつ変えていった。

1年目。シートの上に機械を置き、ブンブンと勢いよく回しながら穂をかざした。何も遮るものがないので、機械の前の人に、はじかれた実や莖や葉がまともに降りかかる。頭から真っ白になるほど。でも、まあそんなもんだと思っていた。



2年目。テレビ番組で、その機械の周りをムシロで囲っているのを見た。なるほど、それは良いかもと思ってやってみた。なるほど、去年よりは散らばらなくて良い感じ。

今年は3年目。脱穀作業にもう一工夫した。囲ったシートの先を狭くして、まとまって落ちるようにしてみた。これはなかなか良いアイデアだった。なるほど、微塵が周りに飛び出さないから、たまった物を時々かき出して、手でほぐして実を外していける。効率良いやり方を見つけたねと笑いあった。(嵯峨千代美)

### <活動雑記>

■味覚体験イベントに参加された女性に「私、インフルエンサーしてます」とおっしゃる方がいて、SNS利用のやり方をいろいろ教授。今後、情報拡散に協力していただけるとのこと。こうやって情報が広がって行くんだなあ、ホームページとブログだけの時代は終わったな、と実感しました。■「通信」前号で、「石場沼下休耕地の駐車場利用が実現」という記事をこの欄で書いたところ、「通信」を読んで役場から「農地の転用ではないんですよ」と問合せ。「転用は全く意図していません。一時的な使用です」と説明し理解を得ました。なるほど、そういう問題もあるのかと勉強に。これからもよろしく。■10月18日、倉敷市で「クリエイティブリユース」活動をされている大月ヒロ子さんの話を聞く機会あり。「家庭や企業から排出された廃材も、分類し素材にして使えば立派なアート作品になる」と、ガスメーターの数字盤や缶のプルタブやテレビのリモコンの部品などを使った様々な実例を紹介。とにかく、ワクワク楽しくやるのがキモ。熊井の森のことを話したら、「森の恵みをつかったいろんなアート作品も作れますよ」とも。大月さんを招いてもっと詳



▲「民具×クリエイティブ・リユース」ワークショップ(滑川町)

しく話しを聴きたい。■当団体の理事である佐藤暎子さんが、9月5日に亡くなりました。佐藤さんは当団体の設立当初からの仲間、鳩山町の唯一の女性議員だった時代が長く、女性の権利拡大と住民自治の定着に尽力され、議員引退後も様々な地域活動に関わり、貴重な助言をいただくなど当団体への貢献は多大でした。冥福をお祈りいたします。(愛場)